## ③第１分科会

### 新規導入　起業教育ワークショップ
### 『高校生のための起業教育ワークブック』の活用

大阪商業大学　経済学部　准教授
起業教育委員会　委員長　柴田　孝

起業教育を推進するにあたり、起業教育を担当する教員用指導書として、『高校生のための起業教育ワークブック』が、大阪商業大学教員と高等学校教員から構成された大阪商業大学起業教育研究会「起業教育ワークブック」編集委員会によって2005年に作成・発行されました。

起業教育研究会分科会のうち、第１分科会は、新規に起業教育に取り組まれる方に、『高校生のための起業教育ワークブック』の活用法・利用法について体験していただくことを目的に毎年実施しています。はじめに大阪商業大学起業教育研究会の考える起業教育について紹介します。

『私たちの考える起業教育は、会社を興すとか、社長になるとかという狭義のものではなく、アントレプレナーシップの涵養、すなわち「起業家精神」と「起業家的な資質・能力」を持った人材を育成することを目標としたものです。そして、「起業家精神」とは、自立性、チャレンジ精神、創造性、積極性、探究心であり、「起業家的な資質・能力」とは、自己責任で決断する能力やリーダーシップを発揮する能力、コミュニケーション能力、情報の収集・分析能力とそれに基づく判断力、問題解決能力、行動力であると考えています。

このような起業家精神や起業家的な資質・能力は、ベンチャー企業の経営者などの起業家だけに必要とされるわけではありません。将来、どのような職業に就くにしても、「自分で考えて判断し、自分で決断して行動できる能力、さらにはチームを率いる事ができる能力」が求められるのは確実です。そして、起業教育が目指しているのは、こうした能力を持つリーダー的な人物の育成であります。（起業教育ワークブック序文より）』

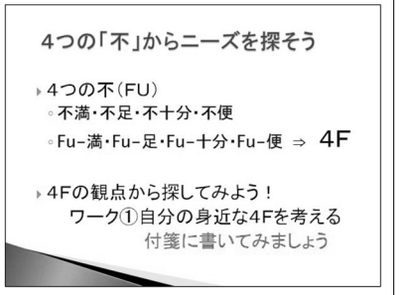
起業教育研究会ではまた、起業教育を『知識を詰め込む教育ではなく、生徒自身に考えさせ、気づかせる教育を実践するもの（同序文より）』と位置付けています。これらは、最近とみに注目されているアクティブラーニングとしての実践であり、また育成する能力・態度としてはキャリア教育や社会人基礎力等の考え方にも対応したものとなっています。

2017年の第21回研究会では、社会に期待される学生の姿および新しい学力観につながる実践として、ビジネスアイディア甲子園に取り組むことを想定して、アイディア発想のワークショップを実施しました。以下に取り組んだ２つのワークを掲載しています。

ワーク①　自分の身近な４Ｆを考える

● ４つの不（FU）
　▷不満・不足・不十分・不便
　▷ Fu-満・ Fu-足・
　　Fu-十分・ Fu-便 ⇒ ４Ｆ

● ４Ｆの観点から探してみよう！
　ワーク①自分の身近な４Ｆを考える
　　⇒ 付箋に書いてみましょう



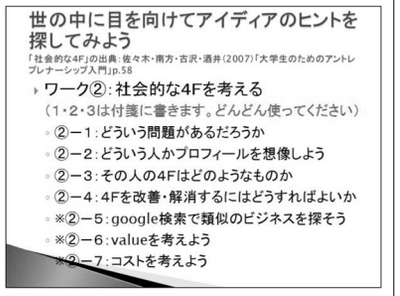

ビジネスアイディアとしてまとめていくためにもアイディアの種となるものが必要です。そのために「ニーズ（こういう機能が欲しい）」を探してみましょう。どこにニーズがあるかを探すために、第１に使用する人からみての「不便な点」、第２に自分の考えていたことと異なる部分が存在する「不満な点」、第３に自分の考えていたことからみて足りない部分が存在する「不足している点」、そして第４に自分が要求している水準には達していない「不十分な点」を考えてみましょう。これら「不満・不足・不十分・不便」を４Ｆと呼んでいますが、これらをみつけ改善する方法を考えることが、新しいアイディアを考えることにつながります。

このワーク①では４Ｆについて説明したのち、自分の身の回り・普段の生活などから、改善が必要と感じる事柄を探して、１つにつき１枚の付箋に書くこととして、制限時間内にできるだけたくさんの課題を探してもらいました。アイスブレーキングもかねていますが、自分たちがどういう点で、もっとこうであれば良いのにと感じる課題を考えていく導入となっています。身

の回りという具体的かつ日常的に感じていることを振り返るという点で意見が出しやすくなっていると考えます。ワーク①で４Ｆの考え方に慣れたところで、次に進みます。

ワーク②　社会的な４Ｆを考える

②-1：どういう問題があるだろうか
②-2：どういう人かプロフィールを想像しよう
②-3：その人の４Ｆはどのようなものか
②-4：４Ｆを改善・解消するにはどうすればよいか
※②-5：google 検索で類似のビジネスを探そう
※②-6：value を考えよう
※②-7：コストを考えよう




ワーク②では、「世の中に目を向けてアイディアのヒントを探してみよう」としています。これは、自分の身の回りにとどまらず、広く社会に目を向けたとき、困難や課題に直面している人はたくさんいるはずで、そうした人々のニーズ（「社会的な４Ｆ」）にビジネスアイディアで応えることを考えてみましょうというものです。
※「社会的な４Ｆ」は、佐々木・南方・古沢・酒井編著の『大学生のためのアントレプレナーシップ入門』に紹介されているものです。

ワーク②では、１および２で、具体的な状況を想定することから始めていきます。このとき、最初から完全な状況を描けることは少ないと思いますので、自分の持つ情報を整理するためにも、付箋を使ってキーワードをかき出し、連想しながら状況の表現を詳しくしていくことをすすめています。困難や課題に直面している人を具体的に想定することができたならば、その人の４Ｆを表してみることを３で行っています。それらをふまえて、４で具体的にどうすれば社会的な４Ｆを改善・解消することができるかを考える段階にすすみます。この過程を通じて、解決すべき課題を発見し、それをどのようにすれば解決できるのか具体的に方法をとりまとめて提案する応募作品の完成につなげていきます。

なお、今回の分科会でのワークでは取り組んでいないのですが、せっかく考えたアイディアも既存のものと同様では評価されませんので、先行事例の有無をインターネット検索などにより確認すること（②－５）、真にそのアイディアを必要とする人がいるか、そのアイディアはどのような価値を提供するのかを明確にすること（②－６）、必要となる支出・費用を考慮して、それを回収できる目算が立つか考えること（②－７）も、ビジネスアイディアとしての訴求力を高めるために、取り組んでいただきたい点としています。

ビジネスアイディア甲子園では、自分自身の直面する課題だけでなく、広く世の中を観察して、世の中にある改善を必要としている課題を発見し、それを改善するための具体的な方法としてとりまとめて提案することを求めています。また、すでにできていること・提供されているモノ・サービスについて知り、それらで十分にくみ取れていない課題を探していくことは、社会に対する理解を深めていくことにつながると考えています。

**参考文献**

１．大阪商業大学起業教育研究会編『高校生のための起業教育ワークブック－ベンチャースピリッツを育むために』大阪商業大学、2005年
２．佐々木保幸、南方建明、古沢昌之、酒井理『大学生のためのアントレプレナーシップ入門』大阪商業大学、2007年